

■高校野球のケーススタディー（第14回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 投手が走者のいない3塁へ送球しましたが・・・ポークにはならないの？

昨年10月の練習試合で実際に生じたプレイです。

5回裏0アウト走者2塁で投手（右投げ）がセットポジションをとったとき、2塁走者のリードが大きかったので、投手は投手板に触れた状態から2塁へ偽投（送球するまね）をしました。そのとき、2塁走者が3塁に走ったので、投手は投手板に触れたまま、自由な足（左足）を3塁方向へ踏み出し3塁へ送球し、走者はタッグアウトになりました。

攻撃側のベンチからは、「走者のいない塁に投げたら、ポークではないの？」といった声が聞こえています。

投手は、2塁走者が3塁へ走ったのを見て、軸足を投手板に触れた状態で走者のいない3塁へ送球していますが、ポークには当たらないのでしょうか。ルール上の解釈を見ていきましょう。

公認野球規則 6.02(a)(4)では、「投手板に触れている投手が、走者にいない塁へ送球したり、送球するまね（偽投）した場合、ポークとなる」と規定されています。

また、アマチュア野球内規⑪において、投手板から軸足を外して、走者のいない塁に送球したり、送球するまねをした場合も遅延行為としてポークが適用されます。

つまり、投手板に触れているかどうかにかかわらず走者のいない塁へ送球したり、送球するまねをした場合は、ポークになります。

しかしながら、規則 6.02(a)(4)後段には、「ただし、プレイの必要があればさしつかえない」とあり、更に【原注】では、「投手が走者のいない塁へ送球したり、送球するまねをした場合、審判員は、それが必要なプレイかどうかを、走者がその塁に進もうとしたか、あるいはその意図が見られたかで判断する」こととされています。

今回のケースでは、2塁走者が3塁へ走っており、3塁への送球に対して審判員が「必要なプレイ」と判断したため、ポークとはならず、3塁手にタッグされた走者はアウトとなりました。



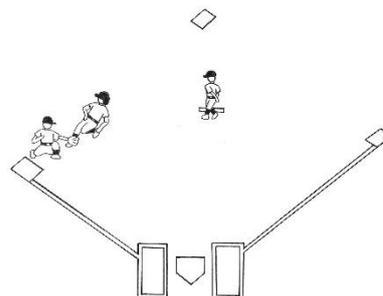
【原注】の条文に見られるように必要なプレイかどうかは、審判員が判断するということになっていますので、審判員も走者が次の塁に進もうとしたか、あるいはその意図が見られたかを的確に正しく判断する必要があります。

それでは、2塁走者が3塁へスタートしたものの、投手が間に合わないとみて投手板に触れたままで3塁へ送球するのを止めた場合（又は3塁へ偽投した場合）はどうなるのでしょうか。

規則 6.02(a)(2)では、「投手板に触れている投手が、1塁または3塁に送球するまね（偽投）だけして、実際に送球しなかった場合はボークとなる」と規定されています。

したがって、3塁の場合は、投手板上から送球するのを止めたり、偽投することはできません。投手板上からプレイの必要があったとしても、送球するまね（偽投）ができるのは、2塁のみとなります。

高校生の投手の皆さんは、走者が次塁にスタートを切ったようなケースに対応するときは、まず軸足を投手板から外すという習慣を身に付けることが賢明といえるでしょう。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：飛田 紀香さん（3年） 坂田 朋葉さん（3年）
イラスト：谷口 真奈佳さん（2年） 中川 早紀さん（2年）